

# いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



3月号 発行 平成27年3月27日

## 平成26年度第2回いわき地域産業6次化ネットワーク交流会を開催しました!

2月12日(木)、県いわき合同庁舎において、いわき地域産業6次化運営会議(事務局:いわき地方振興局、水産事務所、いわき農林事務所)主催による平成26年度第2回いわき地域産業6次化ネットワーク交流会を開催しました。

ネットワーク交流会は、農林水産業の復興や新たな成長戦略として注目されている地域産業6次化をさらに推進することを目的に2部構成で開催し、52名が参加しました。

第1部では、商品開発・販路開拓の専門家であり、6次化イノベーターやふくしま6次化創業塾講師などを務め、福島県の地域産業6次化とも関係が深い、株式会社システムプランニング代表取締役鈴木栄治氏が「事例に学ぶ販路開拓のポイント」と題して講演を行いました。

講演の中で鈴木氏は、「お客様が何を求めているか」を念頭に置いての販路開拓や価格設定、ブランド化について説明しました。

また、商談と販売促進のためのコミュニケーション手法について、バイヤーとして働いた経験を踏まえ、バイヤーの視点や商談方法、バイヤーと接する際の留意点についても詳しく説明がありました。バイヤーとしての実際の経験に基づく実践的な話は、多くの参加者にとって、示唆に富む内容でした。

第2部では、意見交換会が行われ、事前に事業者から募集した地域産業6次化に関する質問に、鈴木氏が回答しました。鈴木氏のアドバイスは、質問した事業者のみならず、その他の参加者にとっても商品開発や販路開拓の参考となるものでした。



(ネットワーク交流会の様子)



(鈴木氏による講演の様子)

(企画部)

## いわき地方山火事防止連絡協議会

2月23日(月)、県いわき合同庁舎において、いわき地方山火事防止連絡協議会を開催しました。この協議会は、森林資源の維持と自然環境の保全を図るため、関係機関の方々と連携して広く市民の皆様に対して山火事防止の啓発に努めることを目的に開催しています。

春先は、空気が乾燥し山火事の発生しやすい時期であり、昨年4月にはいわき市内で約29ヘクタールの森林が焼失する大規模な山火事が発生しました。

このため、会員同士が連携を図り積極的な山火事防止啓発活動に努めていくとともに、山火事防止の啓発活動の実施計画を協議しました。

山火事は、たき火やたばこなど人為的な原因が多いことから、私たち一人一人の心がけ次第で発生を減らすことは可能です。この記事をご覧の皆様も山へ入る際や農作業での火気の取扱いにはくれぐれもご注意ください!



(協議会での協議の様子)

(森林林業部)



## 「いわき梨加工研修会」を 開催しました！

2月25日（水）、新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議主催の「いわき梨加工研修会」を開催し、いわき市内の梨生産者、加工業者、関係機関など30名が参加しました。

研修会は株式会社山際食彩工房の代表取締役山際博美氏をアドバイザーにむかえ、梨の加工特性や加工品取組における事例などについて御指導をいただきました。

また、参加者は、自ら作った加工品や保存の梨、山際氏の福島県産梨を利用して加工したチャツネやカレーなどを試食し、加工原料として梨の可能性を検討しました。

意見交換では、「産地としての加工需要に向けた供給体制づくりの充実が必要である」、「地元のいわき梨の活用を増やしていきたい」といった発言も出るなど、平成27年産いわき梨の生産と利用拡大に向けた新たな取り組みが期待されます。



（アドバイザー 山際氏）



（梨加工品）



（梨加工品の試食）

※「チャツネ」とは、南アジア・西アジアを中心に使われているソース、またはペースト状の調味料のことです。

（農業振興普及部）

## いわき市森林組合林業コンクールの 表彰が行われました！

2月28日（土）、いわき市森林組合第45回総代会席上において、いわき市森林組合林業コンクールの表彰式が行われました。

表彰式では、造林技術部門において宗教法人浄土寺代表猪狩勝利氏、間伐技術部門において平山勇夫氏にいわき農林事務所長賞が授与されました。

このコンクールは、森林組合員の林業技術の向上と林業経営の改善を図り、もって地域の林業に資することを目的に毎年開催されています。

いわき管内の人工林は高齢化が進み、整備が必要な森林も多いことから、今回受賞された方々には、これを励みにますます森林整備に取り組んでいただくとともに、このコンクールが森林組合員の皆さんの今後の森林づくりの励みとなり、いわき市の森林整備が促進されることを期待します。



（いわき農林事務所長賞表彰の様子）

（森林林業部）

**赤井小5年生、田んぼの学校の1年間を振り返り、4年生へバトンタッチ！**

2月26日（木）、いわき市立赤井小学校5年生児童58名による、田んぼの学校「成果発表会・修了式」が行われました。

田んぼの学校は、県の「ふくしまの農育推進事業」により、地域の未来を担う子どもたちが、「農業・農村地域の大切さ」や「環境の大切さ」、「食・命の大切さ」について理解し、豊かな感性を育むことなどを目的とした体験型学習の一環で、今回が今年度の最後の活動となります。

「成果発表会」では、5年生の児童たちがこれまでの活動を班ごとに1枚の模造紙にまとめ、次年度活動する4年生の前で発表しました。4年生の児童は、「イラストやクイズがあって分かりやすかった」、「これから田んぼの学校をするのが楽しみ」と話しており、5年生と積極的に意見と感想を述べていました。

次に、田んぼの学校の校長先生である地元協力農家の根本氏から、5年生児童一人一人に修了証書が手渡されました。児童は、もらった修了証書を誇らしげに眺め、「初めは大変そうなのでお米作りを出来るか不安だったけど、1年間やってきて、私たちにもできるんだなと思った」などと話しており、児童にとってとても有意義な活動となったようです。

最後に、児童たちから、根本氏といわき農林事務所へ感謝状が贈られました。

赤井小学校では、4月以降も、学校独自で田んぼの学校に取り組んでいく予定です。



（4年生からたくさん質問があがっています）



（大きな声で元気に発表します）



（修了証書が授与されました）



（全員での記念写真）

（農村整備部）



## 平成26年度地域特産品創出事業 第2回クラスター分科会

2月27日（水）にL A T O V（いわき駅前再開発ビル）において、「平成26年度地域特産品創出事業第2回クラスター分科会」を開催しました。

今回は、市内の農林水産業者、製造・販売業者、いわき農林事務所担当者など16名が参加し、パン・製菓を営む製造・販売業者が開発した18品の開発品の試食や、1月29日（木）に実施したモニター調査の報告を行いました。

モニター調査では、男女57名を対象に、見た目、香り、味など7項目を10段階で評価していただきましたので、その結果を商品の製造に反映させ、一部の商品は店頭での販売を行うことができました。



（ナメコキッシュ）



（ナメコパン）



（焼きドーナツ イチジク）



（トマトチーズベーグル）

（企画部）

## 「平成26年度第2回ステップアップ講座 経営セミナー」を開催しました！

農業者自らが目標を立て、その目標に向かって活動し、その結果を評価分析し次年度以降に反映させることを目指し、いわき農林事務所は毎年経営セミナーを開催しています。

2月10日（火）に引き続き第2回目は、2月27日（金）、県いわき合同庁舎において福島県農業会議担い手・経営対策部次長の本柳陽一氏を講師に迎え、「農業経営の法人化や設立のポイント」について講義をいただきました。

講師から、「法人化のためには、会社としての理念を持つ必要がある」、「法人になると社会的信用が高まる」、「法人になると赤字でも税金を支払わなければならない」など、長所、短所の具体的な例を示しながらお話しいただきました。

参加者の中には、近々法人設立の構想を持っている方もおり、終了後も積極的にその方法、流れについて相談するなど充実したセミナーとなりました。



（本柳先生の講義を熱心に聴く参加者）

（農業振興普及部）



## 木とのふれあい創出事業 「出前講座」を行いました！

2月10日（火）、13日（金）の2日間、赤井中学校の1年生2クラスを対象に、木とのふれあい創出事業「出前講座」を実施しました。

当該事業は、自然素材の木材を使った物作りを通じ、小中学校の児童・生徒に木材が生産される森林や木材そのものに対する理解を深めてもらうことを目的とし、毎年いわき管内の1校程度で実施しています。

当日は、いわき農林事務所職員が身近な森林や木材利用の大切さについてパンフレットなどを用いて説明を行ったあと、グループに分かれ、赤井中学校で利用する木製のベンチのほか、日ごろから同中学校と交流のある県立平養護学校に設置するカタログラックの製作を行いました。

製作にあたっては、元森林組合職員やNPO法人いわきの森に親しむ会の会員、いわき農林事務所職員が指導に入り、作業をサポートしました。

生徒たちは、製品完成までの作業の工程を楽しみながら、木の感触や香りといった木材の特徴を感じ取ってくれたようでした。



（カタログラックの作成）



（ベンチの作成）

（森林林業部）



## 第20回 全国青年・女性漁業者交流大会

2月26日（木）、27日（金）に東京都千代田区の「ホテルグランドアーク半蔵門」において、全国青年・女性漁業者交流大会が開催されました。本大会は、各都道府県の青年・女性漁業者グループの代表が日頃の取組事例を発表する場で、39グループが5つの分科会に分かれて発表し、各分野の専門家による審査が行われました。

福島県からは、相馬双葉漁業協同組合相馬原釜支所青壮年、福島県漁協女性部連絡協議会が県を代表して活動を発表しました。内容としては、それぞれ福島県の魚介類の安全性、美味しさなどを消費者の方々にPRする取組が中心で、漁業の復興において重要なテーマです。

発表課題の全体的な傾向としては、消費拡大や地域活性化に関するものが全体の半数以上を占めており、全国的に魚の消費低下や漁村の衰退が大きな課題となっていることを反映しています。いずれもレベルが高い発表でしたが、審査員からは、活動の目的を明確にすることや活動によってどのような成果があったかなど、単に活動の報告で終わらないよう目的意識を持って取り組む姿勢についてアドバイスがありました。

なお、相馬原釜青壮年部は「全国共済水産業協同組合連合会会長賞」を女性部は「全国漁業協同組合連合会会長賞」を受賞しました。



（女性部の発表）



（相馬原釜青壮年部の受賞）

（水産事務所）



## 「復興パネル展」を 開催しました！

2月21日（日）から3月1日（日）までの9日間、L A T O V（いわき駅前再開発ビル）1・2階フロアにおいて、東日本大震災により本県の農業・農村が受けた被害の状況と、その後の復旧の取組状況等を紹介した「復興パネル展」を開催しました。

L A T O Vを訪れたお客様が足を止めて、感慨深げにパネルをご覧になりました。

テレビのニュースにも取り上げられ、本県の農業・農村の復興が着実に前進していることを、広く県民の皆様に広報・発信し、理解を深めていただく良い機会となりました。



（パネルに見入るL A T O Vのお客様）  
（農村整備部）



## いわき地方の農林畜産物 モニタリング検査結果

福島県が行った、いわき地方の2月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング検査結果をお知らせします。

（表1）農林畜産物のセシウム検査結果（2月末現在）

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数			計
	検出限界値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超過の検体	
8品目	2品目（※）			10品目
20検体	2検体	2検体	0検体	24検体

※：大豆、ふきのとう（野生）

検査した10品目24検体のうち、8品目20検体において、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は（表2）のとおりです。

（表2）放射性セシウムが1点も検出されなかった品目と検体数

葉タマネギ 2、イチゴ（施設） 3、小豆 1、秋そば 1、菌床しいたけ（施設） 4、菌床なめこ（施設） 1、牛肉 4、原乳 4
---

なお、大豆、ふきのとう（野生）については、それぞれ1検体に100ベクレル/kg以下の放射性セシウムが検出されました。内訳は（表3）のとおりです。

（表3）基準値内で検出された品目と検体数

		大豆	ふきのとう（野生）
検体数（うち基準値内）		2 (2)	2 (2)
内訳	100ベクレル以下（最大値：ベクレル/kg）	1 (13.0)	1 (14.0)
	検出限界値以下	1	1

2月28日（土）現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されている品目は、（表4）のとおりです。

（表4）出荷制限及び出荷自粛品目（2月末現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限（7品目）	野菜・根菜・芋類	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、こしあぶら、たらめ（野生のものに限る）
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ
出荷自粛（1品目）	畜産物	—
	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

また、昨年に引き続き平成26年産の米についても全量全袋検査を実施しており、2月末までの検査点数563,098点のうち、99.97%の562,934点、934点が測定機器の測定下限値未満、164点が基準値内で検出が確認されましたが、基準値を超過したものはありません。

（表5）玄米（平成26年産）検査状況（2月末現在）

測定値区分（単位：ベクレル/kg）	測定下限値未満（<25）	25 > 50	51 > 75	76 > 100	100以上	計
検査点数（点）	562,934	164	0	0	—	563,098
割合（%）	99.97	0.03	0.00	0.00	—	100.00

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、ご確認ください。

（企画部）

🌸 いわき花き鉢物研究会員が生産している季節の鉢花 🌸

いわき花き鉢物研究会員が生産している、様々な季節の鉢花を紹介します。

◇クリスマスローズ◇  
(キンポウゲ科)

英名ヘレボレス。原種はヨーロッパからアジアの広い範囲に分布しています。

名前の由来は諸説ありますが、ヨーロッパでクリスマスの頃咲くヘレボレスの一種を「クリスマスローズ」と呼んでいたことから、日本ではいつの間にか、ヘレボレス全体を「クリスマスローズ」と呼ぶようになったようです。

有茎種と無茎種があり、日本で流通しているものは、根茎から新芽を出し、花柄が伸長して花を付ける無茎種がほとんどです。



◇エニシダ◇  
(マメ科)

「金雀枝」とも書きます。原産地はヨーロッパです。

エニシダには多くの種類がありますが、鉢物で流通しているのは「ヒメエニシダ」と呼ばれる種類です。

若干の耐寒性がありますが、いわき地方でも露地での越冬は難しいと思われます。

根が弱いため過湿に注意し、移植の際は根を傷つけないようにして、一回り大きな鉢に植え替えます。



(農業振興普及部)

いわきの情報をお知らせします！

パート2 いわき市内の宿泊のできるグリーンツーリズム関係施設の紹介

今月号は、いわき市内の宿泊のできるグリーンツーリズム関係施設パート2をご紹介します。

いわき市遠野オートキャンプ場



遠野町は山と川で囲まれた自然豊かな地域で、いわき遠野歳時記「満月祭」など、古くからの文化を大切にしています。いわき市遠野オートキャンプ場では、年間を通じて、遠野町の食文化や里山生活体験などの、楽しい体験講座を行っていますので、足を運んでみてはいかがでしょうか。

- 収容人数：オートキャンプサイト・キャンプサイト・宿泊棟含め 200 名程度
- 所在地：いわき市遠野町入遠野字越台 97-1
- TEL：0246-74-1031

湯の岳山荘



常磐地区は、千年以上の歴史がある湯本温泉三函(さこの湯)、常磐炭田などが有名な地域です。湯の岳山荘がある常磐藤原町には阿武隈高地の一部を占める湯の岳があり、豊かな森林に囲まれています。湯の岳の雄大な自然の中で、森林体験をしてみてもいかがでしょうか。

- 収容人数：バンガロー含め 80 名程度
- 所在地：いわき市常磐藤原町湯ノ岳 2-1
- TEL：0246-44-3273

※お出かけの際は、事前にお問合せください。

## 食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日（4月は8日（水））に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。  
なお、内容は変更される場合がありますのでご了承ください。  
また、営業日（メニューの実施日）については、事前にご確認ください。

### ◇いわき食彩館株式会社 スカイストア（平字一丁目）

推進日における旬の食材を使用したメニュー

- ・地産地消メニュー：弁当、惣菜等
- ・説明：いわき産の安心・安全な食材（米、ほうれん草、キャベツ、かぶ、人参、ごぼう等）をふんだんに使用しています。

## いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
  - (1) モニタリング情報検索
  - (2) 出荷制限等一覧表



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
（県いわき合同庁舎 3階）

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース